

例 言

本資料は、鑄造遺跡研究会の2014年10月4日に開催予定の研究発表会の報告に関する資料、最近の鑄造遺跡の研究動向、および、2013年度研究発表会の討論記録を収載したものである。

鑄造遺跡研究会2014も、とくにテーマをもうけず、古代中世の鑄造遺跡、鑄物生産に関する民俗例、鑄造関連の伝世および出土遺物、鑄造技術の歴史などについて、幅広く検討して課題を解決し、さらに新たな研究課題を提出する予定である。

本資料の編集は、鑄造遺跡研究会事務局がおこなったが、執筆いただいた方々、作成過程において、ご協力をいただいた関係各位に深謝したい。

目 次

鑄造遺跡研究会2014研究発表	2014年10月4日(土) 京都橘大学清史館821教室	頁数
関東物部姓鑄物師と丹治久友		
京都橘大学 五十川伸矢	10:40~11:00	2
関西の鉄仏に関する一考察——造形的特徴と鑄造技術からみた成立時期——		
京都造形芸術大学 秋山典俊	11:00~11:40	8
中国周時代「考工記」記載の青銅合金比率に関する一解釈		
京都造形芸術大学 内田俊秀	11:40~12:20	18
ハンディ蛍光X線分析装置による琉球鐘の科学調査		
奈良国立博物館 鳥越俊行	13:10~13:50	22
デジタル画像でみる隋 唐 宋鏡の鑄造技術——製作技法と文様表現——		
大阪府教育委員会文化財保護課 西川寿勝	13:50~14:30	28
蛍光X線分析による和鏡の金属組成調査——江戸時代を中心に——		
黒川古文化研究所 川見典久	14:30~15:10	44
研究動向		
国際歴史金属会議BUMA VIII奈良開催される		
鑄造遺跡研究会事務局		56
正倉院文書にみる「湯口塞」について		
古美術修理すぎもと 杉本和江		62
鑄造遺跡研究会2013討論記録		67